

土岐・運・来

会報「土岐・運・来」第29号

発行 自然・馬・人の会

発行日 2005年 7月17日 (日)

只今の会員数 正会員 56 家族

協力会員 24 家族

賛助会員 1 家族

馬と子ども達の笑顔が集まる場所

「馬の会」に入って…

娘が「馬の会」にお世話になって、この春から4年目になります。動機は単純で、動物が苦手ではないこと、交通の便利がよく通いやすいということ、そして「乗馬」というちょっとカッコいい言葉に引かれ入会しました。

今は乗馬会が大好きで、楽しいから、乗りたいから行くという純粋な気持ちだけのように思います。いつの日にか手綱を持ち、馬との一体感を経験できたらと願っています。

これだけの規模の活動を続けていくことはとても大変な事です。娘がここで出会えた馬と人とのふれあいは貴重なものです。感謝しています。

秦野市 浜岡ますみさん＆みさとさん

乗馬会をお手伝いして…

乗馬会のお手伝いをするようになり、一番印象的だったのはやはり子供たちの笑顔でしょうか。今からかと順番待ちをしている時、楽しそうに馬に乗っている時、そこかしこに子供たちの笑顔があふっていました。そしてそんな子供たちの笑顔を見ることによって、お手伝いしているこちらも元気をもらい、また（自分も馬に乘りますが）初めて馬に乗った時の楽しさを思い出すことが出来ました。これからも子供たちの笑顔を見るため、お手伝いを続けていきたいと思いますので皆様よろしくお願ひします。

南足柄市 加藤 隆久さん



初参加して…

6月に、初めて馬の会にてお手伝いさせて頂いて一番に感じた事は馬に乗る人も、ボランティアの人も、なんて皆笑顔なんだろうという事でした。

暑い中、待たされてグズッてしまつた子供も、馬の背中に乗れば満面の笑み。そして、それをフォローしている自分までが、自然と笑顔になっているんですね！大好きな馬を通じて、新しい出会いや喜びを共有できるなんて素敵ですね。

また、逆に実際やってみると、安全の確保や会員さんとの交流など裏で、支える事の難しさや重要さも痛感しボランティアの皆さんのが努力と、会を盛り立てようとする姿勢を感じました。

今回は初めてのお手伝いとなり、あまり役にたてませんでしたが、また、是非参加させてもらいたいと思っています。

平塚市 宇佐美 優姫さん

安全対策研修会を行いました

4月24日、北米障害者乗馬協会(NARHA)上級レベルインストラクターのマイクとくざわ氏をお招きして、安全対策研修会を行いました。

「安全対策研修会に参加して」



研修会は小田原のボランティア風景のビデオを見て、問題点を挙げることから始まりました。

ボランティアに参加している時は、客観的にはみられてない行動が、画面を通して見てみると、客観的に冷静に見ることができ、大変勉強になりました。

たとえば、スタッフが風の強い日に、裾のヒラヒラしたコートを着て馬の近くにいたり、馬係り→サイドウォーカーの間の狭い隙間に指導員が入っていたり、馬係りが後ろ向きに歩いて馬をひいていたり、馬の近くで子供が走っていたり、..

毎回の乗馬会で見られている普通の風景かもしれないのですが、客観的に見てみると、いろいろな場面に危険が潜んでいることに驚かされました。馬がいつ何に驚いて、平静さが無くなるかもしれませんのに…。私の中でこの馬は大丈夫と、思い込みがあることにも気づきました。

研修会で、スタッフにはもっと「集中力・注意力・行動力」が必要だと教えられました。

そして今回の気づきを生かし、乗り手も楽しく、馬がストレスを感じない乗馬会にしていきたいです。

秦野市 横森ます枝さん

当日はマイクさんの経験談の他に過去の乗馬会のビデオを見て危険性を確認しあいました。客観的に安全性を監視・確認する「目」の必要性や障害の軽い方へほど注意が不足しがちな事、一般の方との分離の必要性、音・物に対する配慮等盛んに意見交換がされました。

その後の乗馬会では、直接馬や人に係わらない第三者が注意したり、お互いに注意をし合う等、緊張感の高まりと共に行動も改善されています。又杭を打ったりコーンの色が変わったり重石をしたり、進行方向を変えたりと毎回試行錯誤され、より安全性が充実している様に実感致します。限られた場所・予算の中で大変なご苦労と思います。ありがとうございます。今後も皆さんに楽しめる乗馬会であるよう(自分が楽しんでいます)微力ながら参加させて頂きたいと思います。

南足柄市 佐藤ゆかりさん



6月のロングの研修会に参加して

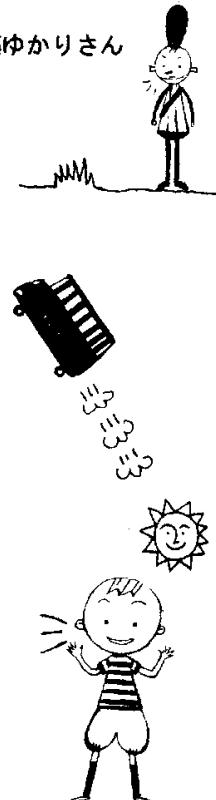
研修で、曳き馬とコミュニケーションで自閉症について講習を受けました。

以前にも、曳き馬の講習は受けさせていただいたのですが、今だに馬の気を自分に集中させる事が出来ていません。多分、自分は馬の事(性格・状態)があまり解っていないので、何かあつたら(突然馬が暴れたり)どうしよう、と気持ちの中のどこかで思っているのかもしれません。

今回は、自分も馬に乗ったりして、乗る人の気持ちも考えて見ました。馬に揺られながら、気持ちよく風を受けてこのまま乗ってみたい。。。なんて、安心して乗ってもらうにはどうしたら良いだろう。まずは、前に進みます・停まります等、はっきり言って乗り手に伝える事を心がけたいと思いました。馬の色々な事については、これからも皆さんに教授して頂きながら、馬への不安を減らして行きたいと思っています。宜しく御願い致します。

馬は、何周も同じ所を回って、停まるときには口を引つ張られて、痛いし、飽きるだろうし、毎回ありがとうございます首をポンポンたたいてもらつても、もうイヤッて思つてないのかな~。きっと思つているよね。そのストレスをどうやって解消してあげられるのだろうか。。。

小田原市 鈴木淳子さん





『馬ってどんな動物？』

※ 草食動物の馬は、肉食動物にねらわれる所以で、いろいろな原因ですぐにおびえる。

馬はおびえた時、走って逃げる。

逃げられない時は、とりあえず跳ねるか蹴る。

だから、

○馬のいるところでは、急に動かない、急に大きな音を出さない。

○馬のそばでは、馬の急な動きに対応できない。しゃがんだりせず、いつでも逃げられる余裕を持つ。



※ 馬は群れをつくって暮らす動物で、群れにはボスがいて、他の馬はボスに従うので、馬を扱うときは、馬のボスになる。

※ 馬は群れの仲間を危険を見つけるアンテナにしているので、まわりの人間の気分に影響を受けやすい。

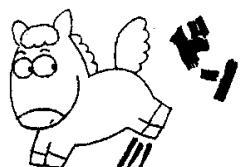
だから、

○人間が緊張していると馬も緊張するので、まず人間がリラックスする。



※ 生き物が目を見詰めるのは、獲物をねらったり雄が雌を取り合ったりする時だけなので、馬は目を見詰められると嫌がる。

たとえば、人間が馬に対して正面を向いて馬の目を見るのは、馬の言葉では「あっちへ行け、おまえを仲間に入れないぞ。」という意味になる。



※ 馬は真正面が見えにくく、真後ろが見えず、
なにかが見えないところから近づいてくると驚く、

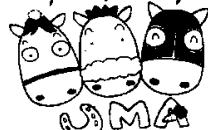
だから、

○真正面・真後ろからは近付かない。

○馬が近づいてくる人を確かめることができるように、斜め前から、やさしく声を掛けながら近づく。

○後ろから近づく時には、急に近づいて驚かさないように、必ず声をかけて馬が近づいてくる人を確かめてからゆっくりと近づく。

(リ・ラ・ッ・カ・ス)



※ 馬はスキンシップが好きなので、
馬の体に手を触れていると馬が安心する。

だから、

○馬と仲良しになるには、なでたりさすったりしてやるのが近道。

でも、

○この時、人間が緊張していたら逆効果なので、まず、自分がリラックス。



※ 馬は押ししたら押し返してくるので、
人間の力で馬を押しやっても、馬が押し返してくる力にはかなわない。

だから、

○動こうとしている馬を力で押し返すのではなく、ひき綱、手綱の操作で止める。



「馬」と「子ども」と一緒にボランティア活動してみませんか？

毎月1回、小田原城址公園内で行っている、「自然・馬・人の会」では、ボランティア募集中です。馬に関わる以外にも、色々な仕事があります。私もできそうかな？と思ったら、1日でも半日でも1時間でも、ボランティアやってみませんか？

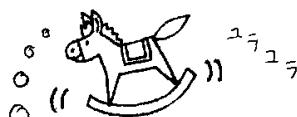
◇ こんな仕事があります。



受付



スイマー



馬のブラシがけ
・馬糞



馬を曳く



乗り手の補助



馬を使っての研修



子どもの遊び相手・
ヘルメット合わせ



この他にも、会場の設営・馬糞の片付け、汁物、飲み物の用意、パソコンでの文書作り…など、色々な仕事があります。

時間は7時30分から16時30分まで。一駆でも構いません。

15歳(高校生)以上なら、どなたでも参加できます。

小中学生もボランティア見習いができます。

定期乗馬会の予定

9/4 (日) 10/2 (日)



後援：小田原市

助成：ともしひ基金実事業
子どもゆめ基金



「自然・馬・人の会」 会長 桜井 広利

〒250-0045 小田原市城山1-3-22

TEL 0465-32-1308 FAX 0465-32-1332

E-mail na-nhp@wb3.so-net.ne.jp(中村)

HP http://dhi.cool.ne.jp/uma/